

新宮山彦ぐるーぶ第1971回―4
春季連休中行仙宿への来宿者の対応と補修作業(補給路の段差、モノレールの修理調整、側溝の土石浚い。茶白山登山道偵察)

◇実施日：2018年05月04日(金)～5月06日(日)

◇参加者：川島 功(S.Y.K.G.)、濱野兼吉・志岐 敬(S.Y.K.G.)。

沖崎吉信、児嶋道夫、上村和美、梶野照雄、湯川一郎、

細川頌司(S.Y.G.)。計9名、延13日。

5月04日(金・祝) 晴。(来宿者17名)

新宮発7時30分、川島代表と2人で出発。寒気団が南下し寒くなりそうなので、ダウンジャケットやフリースのシャツも持って寒さ対策はバッチリ。

国道168号線から宮井大橋を渡ると対岸の小船集落キャンプ場にはテントが満杯。流石に連休である。

国道311号から425号に入り浦向の集落を過ぎると小型のバスが1台停車している。登山客の送迎用に待機しているのだろうか・・・アマゴ釣りの人も川に向かっていて。国道の両側にはフジの花がまだ所々に残っていて下界より季節の移ろいが遅いことを物語っているが、山はすっかり新緑の季節を迎え活力が漲っている。

補給路登山口に到着するとモノレールが下に降ろされている。ザックや食糧等を積み込み川島さんの運転で出発。小心者の私はモノレールが恐くて、積極的に乗ろうとは思ったことがない。あんな細いレールであるの山腹の急傾斜を登るのは凄いなと思う反面、大丈夫なのかという不安がある。確率的にはどのくらいの頻度で事故が起こるのだろうか・・・つい想像してしまい不安の方が先立ち、マイナス思考ばかりする。そうこうするうち数分でモノレールは終点に到着。

今日は自分の荷物だけで川島さんの後について小屋に向かう。

早速シヤクナゲがピンクの花を咲かせ迎えてくれる。今年は裏年で花は少ないが、それでもこの花の華やかさは心を和ませてくれる。前回の3月下旬には冬枯れしていた山々も赤やピンクの花々が新緑に色どりをそえている。例年なら補給路沿いのコシアブラも今年はすっかり新芽が伸て、旬が過ぎていく。川島さんは行仙岳山頂のコシアブラも例年より早く芽が出て間に合い、乾さんが持ってきたコシアブラと併せ、前半の当番の人達が御馳走になったそうである。

佐田ノ辻はいつものように冷たい風が吹き抜け、立てられた幟り旗や鯉のぼりが強風に煽られて必死に竿にしがみついているように気が毒に思える。気温7℃であった。



モノレールに荷を積む

補給路の段差補修用栈木を運ぶ

小屋に着くと昨日からの畑林・中前さんが迎えてくれ、コーヒーをいただく。

小屋の管理は畑林さんに頼み、川島、中前、濱野の3名は補給路の段差の補修に栈木を背負子に背負い下る。第一ベンチから七曲がり、十五曲がりの段差の古く朽ち果てた所を新しく栈木を取り替え、段差の高低やまた安全に歩けるように考慮しながら川島、中前さんと約16段差を補修し小屋に戻る。

昼食をすまし13時過ぎに畑林、中前さんが下山。



モノレール終点上



段差 栈木補修中



行仙宿で昼食



交代者下山前に



雑木薪を一輪車で運ぶ



最初の来宿者到着！

午後から薪を拵える。川島さんは奥駈道周辺の立ち枯れ倒木をチェーンソーで小切り、私は一輪車で回収し薪置き場に揃える。
 15時過ぎ頃から宿泊の登山客が見え始める。先を目指し小屋に立ち寄る縦走者にコーラやコーヒーの接待をする。今日は深仙や前鬼からの人が多く健脚組ばかりである。
 水場への水汲みも到着順に宿泊者をお願いする。今回は水場から7リットルタンクを担ぎ、登り7分チョットで上がってくる猛者もいた。予期せぬ事があつたが志岐会友が浦向道から登ってくる。私たちも夕食の準備にかかる。川島さんの朝採れの空豆にスナック豌豆を塩茹でし玉葱とのサラダ。夕食用にタレ漬け牛肉と玉

葱、小屋のホダ木に生えていたシイタケを油炒めにする。
 16時半から夕食交流会が始まる。当初来宿者9名で在り、宿泊者全員に缶ビール1本をプレゼントしたが、最終的に予約外を含め6名が宿泊し、来宿者全員に無償提供するはめになった。
 川島代表より「新宮山彦ぐるーぷ・千日刈峰行」によって南奥駈道の太古ノ辻より熊野本宮まで、結局「役行者が修行した大峯奥駈道」が通して歩けるようになった。南奥駈道の整備等日頃の「新宮山彦ぐるーぷ」の活動を紹介された。又、今日は川島代表「喜寿」77歳の誕生日であると紹介され、その後全員自己紹介等があり、大変楽しい夕食交流会が19時半まで行われた。



代表・本日喜寿に！



京都からの来宿者



来宿舎との夕食



来宿者との夕食・自己紹介



管理棟で懇親会

京都から来られた4人連れの中に「京都山の会」の方が居られ、行仙宿建設の際に一輪車を担いで登ってこられた関本俊雄さん、十二支会・元会長の横田明男さんも知っておられるとの事から、その後管理棟にて「京都の4人」との懇親会が21時半迄行われ、川島さんと管理棟で宿泊された。

私もストーブの火を消さないように、1時間半から2時間ごとに薪を入れ、火を絶やさないようにした。

行動タイム

新宮7:30→8:50登山口9:00→9:30行仙宿9:45→モノレール終点下補給路の段差補修作業→11:20行仙宿(昼食)→行仙宿12:45→立ち枯れ雑木の薪作り→14:40行仙岳。夕食16:30、消灯・就寝20:00。

5月05日(土・祝) 晴 (来宿者3名)

翌朝早い組は3時過ぎから出発の準備。大半は玉置神社迄であるが、一気に本宮まで下るといふ健脚組もいる。

志岐会友は、5時40分に玉置神社に向け出発「気をつけて!」と声を掛け見送る共に名古屋の女性二人連れも見送る。最後は6時半過ぎに京都の方々が小屋を出発された。



志岐会友が出発!



女性二人連れ出発!



京都の方達出発!

7時20分細川・湯川君が、甥(細川)を連れて笠捨山から茶臼山への尾根偵察に行く為、新宮5時頃に出て沖崎さんから預かった「お茶の葉とビール1箱」を荷揚げしてくれる。無理せぬようと伝える。

川島さんは、チェーンソーの切れが悪いので、チェーンソー刃を取替え、チェーンソー内の溜まった木屑も取り除く。

一段落したところで、補給路登山口のモノレール下の林道側溝に、支谷から枯葉や土石砂等が流入し側溝からの溢れを浚渫し、側溝のはけを良くする作業の為私は手箕3個を持って、川島さんは、ジョレンと段差補修用の木杭6本を担いでモノレール終点へ。モノレールが降ろされていないので、前日終点にデポしていたトンガ一丁とジョレン・手箕3個を積み登山口に下りる。

程なく梶野車。沖崎者(同乗・上村)、児嶋車(1屯トラック)が到着。早速側溝を浚う。ジョレンやスコップ(沖崎)で掻き、手箕に枯葉や土石砂を入れるが、運ぶ際手箕の隙間から水がしたたり落ち、ズボンに泥水がかかり濡れる。

適当な所で止めようと言うことであったが、沖崎さんの人出がある時にと全部浚えてしまう。シーボルトミミズやサワガニがいて、昔はウナギモドリのエサに使った。サワガニは唐揚げや味噌汁の具にしたとか言いながら少年に戻って作業に精を出した。



側溝の土砂等堆積状況



モノレール下除去



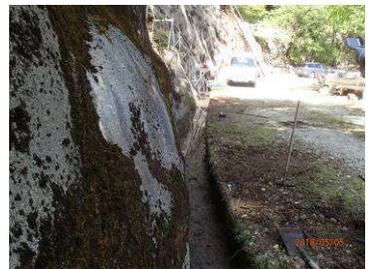
堆積土砂除去・運搬



側溝の溝堆積土砂浚え・運搬



堆積土砂浚い後



行仙宿に戻り昼食



志納箱の改修



日帰り組下山前

「山彦」も土方をする時には日当が出てもいいのでは云々の冗談もでて、肉体の疲労感と共に達成感も味わった。

終了後、カフェ児嶋が開店、谷の湧き水でコーヒーを淹れ(トラツクの電源)一息をいれ行仙宿小屋に戻る。

モノレールは傾斜地で停止した時に、時々下降する不具合が生じているので、(株)カマハラテックで教った児嶋さんが、モノレールを修理・調整をするために一人残る。

途中、川島さんは木杭の必要な段差補修箇所があるので、木杭を持って下り5段差を補修されてから戻られた。

小屋では梶野さんが発電機を作動させ掃除機をかけ、沖崎・上村さんは、備品の整理や片付けを行い、きれいに整頓されていく。

昼食は差し入れのトンカツ弁当、昆布の巻き寿司、柏餅等豪華な食事となった。

突然自転車を引きいた青年が現れる。聞けば峠を自転車で越えているとのこと、もう随分古い話になるが徳本峠を自転車で越えていた青年に会ったことがあると話すと、彼も徳本峠を越え上高地に出たこともあると答えた。富士山にも自転車で行ったとも話す。昼食を挟みながら川島さんと随分話し込んでいたが、彼は持経宿を経て滝川辻を越えるようであった。

午後から焼却炉で使用したトイレットペーパーを焼却。小屋内のペットボトル、ゴミ、アルミ缶等をゴミ袋に詰め作業は終了。私と日帰り組は、それぞれ背負子や手に持って降りることにする。

モノレールの修理調整をしていた児嶋さんも昼食を終えて13時半前に行仙宿に上がってきて全員揃う。

しばらくして佐田ノ辻で記念撮影を撮り、今日もう一泊の川島さんを残し14時前に下山。

児嶋さんは先日採った行仙宿入口の雨水槽に挿していたシロヤシオの花を持って下る。荷物はモノレールに載せ、後発の梶野さんにモノレールを託す。沖崎さんと私は途中の駐機場に置いていたオイルや燃料等を回収して、林道に下る。児嶋さん最終調整中。

林道では保管用の箱に燃料オイル等を詰め替えシートを被せる。駐機場に屋根を付けエンジン部分の雨よけ対策をしなければということになる。

湯川さんが15時頃に下りてきて、甥の細川君も少し遅れて顔を出し、次週13日の大日岳の参加要請や、梶野さんの12日(13日)の大峯縦走トレランのサポートの話が出て終了。帰路についた。



本日の作業者(茶白山班外)



モノレール最終調整



茶白山偵察班戻る

行動タイム

起床5:30。湯川さん荷揚げ7:20→行仙宿8:15→8:40登山口→8:45
側溝土砂浚え作業10:00→10:20登山口→11:10行仙宿→11:30昼食
12:20→作業→行仙宿13:50→14:20登山口→作業→登山口15:10。

(記：濱野、写真：川島・梶野)

モノレールの修理調整作業 (記：児嶋)

先日、沖崎さんと二人で(株)カマハラテック鮎田工場へ伺って、ブレーキの調整の仕方を教わり、エンジン側の停止ブレーキと緊急時のサイドブレーキの分解方法等教わったのですが、我々が現場で使っているモノレールとは少しだけ違う箇所がある。カマハラテック工場で見たと2台のモノレールのブレーキワイヤーは太い。山彦Gのモノレールのブレーキワイヤーは、1.6mmしかない。今回、2.6mmの少し太いワイヤーに交換するには、今までの端末の部品は全て合わなくなる。事前に太いワイヤー用の特殊ボルトを自作していたので取替える。取付部の穴もドリルで少し大きくする。

サイドブレーキのライニングの剥離が無いかも確認する様に言

われていたのでボルトを外し、ドラムを引き抜くがシャフトが錆びて動かない。仕方がないので木の板に穴を2ヶあけて、特製木のプーラ抜きを作り、何とかハンマーで叩きながら取外す。内部の多少の汚れは清掃して、シャフトに少しオイルをつけ組立てる。今度は、ウソの様に軽く入る。

ライニングの状態は、確めて元通りに組戻し、13時頃の遅い昼食にする。その後、モノレールを運転し13時半前頃に行仙宿小屋に着き本隊と合流。管理棟側の窓ガラスの破れた箇所を塞ぐ作業をしていた梶野氏を手伝いコーヒータイム。

モノレールで荷下ろし後、エンジン側のブレーキを約2mm移動して、少し上の急傾斜地点で停止状態を確め、今度はニュートラルにしてエンジン停止、サイドブレーキの停止も確める。

尚、サイドブレーキは、緊急時以外は使わないように、各自に連絡し徹底させる必要がある。

笠捨山と茶白山へのルート確認 湯川(彦根)・細川(伊丹)。

行仙宿へは新宮山彦ぐるーぶ会員の叔父(湯川一郎)とともに、私自身三度目の訪問となりますが、これまでは行仙岳、水場の往復だったため、笠捨山には登ったことがありませんでした。

今回、叔父から笠捨山に登ってみたいかとの誘いがあり同行することになりました。

前日、ぐるーぶ事務局長の沖崎さんから預かった缶ビール1箱と茶葉を行仙宿に荷揚げすることから、叔父の荷物を私が持つこととなり、久しぶりにザックが重いと感じました。

補給路登山口から登り7時23分に行仙宿に到着。来宿者の対応で宿泊された、ぐるーぶ代表の川島さんと濱野さんに迎えられ、叔父が笠捨山へ登り茶白山へのルート確認に向く旨を伝えた。

笠捨山への登路、新緑で美しい茶白山への尾根を見ると、余り遠くには感じられませんが、予想に反して起伏の多いこの尾根歩きは脚に堪えました。

笠捨山山頂には8時53分に到着。遠くに釈迦ヶ岳が望まれました。一休み後、反射板のある東峰から「茶白山150分難路」の標識に従い進みますが、いきなり急下降で踏み跡がありません。叔父は古びた赤テープがあると叫びつつ、サッサと降りて行くので、後を追って行くのに大変でした。

尾根を意識しつつ、ピークは右斜面を捲きながら進みました。白いイワカガミが咲いているピークを越えると、深いキレットが待ち構えていました。慎重に歩を進めピークに登ったところで、10時45分、叔父からこのピークで休憩し引き返すと伝えられました。

以上(記：細川)

起伏の多いこの尾根は、昭文社の地図には記載のないバリエーションルート。往路では気が付きませんでした。茶白山から笠捨山に向っては、岩や樹木に赤丸のペイントがいくつも見られたことから、このルートは笠捨山への登路として歩かれたものと考えられます。

笠捨山への最後の登りでは手足をフルに使います。登山靴の中にも、土と枯葉が入り込みました。12時35分に反射板のある東峰に到着、甥に「あと少しだ、頑張れ」と声をかけます。

休憩後、行仙宿への帰路、縦走者数名とすれ違いました。単独行の方から「次のピークが笠捨山ですか」と声をかけられました。但し、「まだ先です」と応えると、「大峰縦走は思ったより起伏が多く疲れますね」との返事がありました。

行仙宿に戻ると、川島代表がコーヒーとポップコーンを出してくださり、一息つきました。

補給路登山口に降りると、本日作業に来られていた沖崎事務局長、児嶋さん、濱野さん、上村さん、梶野さんが作業の後始末をされていました。今日の私たち二人の行程等について簡単に報告し、皆で帰路につきました。

帰路は、宮井大橋経由で新宮に16時40分に無事到着。甥と今日の行程を回想し、茶白山への思いがさらに強くなるの

を感じました。なお、今回の茶白山ルート確認にあたっては、当ぐるーぷ会友の瀧本昭太郎さんの記録(2010年12月27・28日)を参考にさせていただきました。



キレット



赤ペイントは笠捨山に向かつて塗られている

行動タイム

新宮 4:54→6:27 補給路登山口 6:35→7:23 行仙宿 7:26→8:53 笠捨山 9:06→10:29 キレット 10:30→10:45 引き返し地点 10:52→12:33 笠捨山 12:38→14:08 行仙宿 14:28→14:55 補給路登山口 15:10→16:40 新宮
(記 湯川)

小屋番が一人になった川島は、宿泊ノートを読んでみると、細川・湯川君が茶臼山尾根の偵察を終えて戻り、コーヒで小休止の間にルート確認報告を受ける。

楊子ノ宿から単独行の横浜の方が到着。彼は、テント・寝袋を持参しているが火器類を持たず菓子とサーセイジ類だけで行動しているという。少なくともマッチかライターを持参する様に忠告する。ビール・コーラーを勧めたが糖の関係？辞退された。

二人でスナック 豌豆+玉葱のサラダと鰹の味醂干しを焼いて食べるいると、テント張りたいが少し遅れた連れと相談すると小屋に声を掛け外へ・・・男女二人は宿泊すると来る、京都から来た夫婦とのこと。ビール1本サービスすると言うと大喜びである。結局、来宿者は3名。京都の二人はビールを買って飲んで頂き紙パックの酒もあげ、世間話をしながら楽しいひと時を過ごし、20時に消灯・就寝。



茶臼山班行仙宿に戻る

本日の来宿者と記念撮影

5月06日(火)

晴後薄曇

5時に起床、暖かい朝で気温13℃。お湯を沸かして来宿者の朝食を手助けする。横浜の人は、進呈のカップヌードルで朝食、煮豆パックと割箸もあげ5時半過ぎに見送る。京都のご夫妻も6時前に「気をつけて！またのお越しを！」と見送り一人で朝食。

朝食後、宿内及び管理棟内の紙食器類、食料・調味料等を再整理し、資材倉庫・発電機室内も整理整頓を行い、集めたゴミや不要品を焼却炉で焼却する。

月曜日から仕事を始めるとなると、昨夜宿泊しないと熊野本宮には日曜日に着けないので、整理作業中に登山通過者なし。

整理に思ったよりも時間がかかり、ゴミ焼却後の10時半過ぎに行者堂前の鯉のぼり・幟旗を撤収収納する。

本日予約者6名(大峯山寺・戸開け後逆峰)あるが、11時に下山するも、途中雨水槽内の缶ビールの収納に戻り、保管後下山。



幟旗撤収！

行動タイム

起床5時、朝食5時半。宿内・管理棟・資材倉庫内整理、幟撤収
↓行仙宿 11:10→11:35 登山口 11:40→13:05 鶴殿。

(記：川島)